

平成 30年 3月 9日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	鹿児島大学教育学部学校教員養成課程 4年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018年9月		

2. 留学の概要

留学期間	開始年月日	2017年9月	終了年月日	2018年3月
留学のタイトル	日本を代表するグローバル教員のリーダーに ～フィンランドとカンボジアでの授業実践による自己変容を通して～			
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700字程度）				
<p>私の夢は、「全ての子どもに平等な教育を与えられる学校を作ること」と「多様な文化や価値観を理解し、国際的に活躍できる人材を育成し、他の教員にも影響を与えることのできる『グローバル教員』になること」だ。これからの日本は、グローバル化が加速する中で、多様な価値観と共存し、新しい価値観を創造していくことが求められている。私は教員として世界に視野を向けられる日本人を育成することを使命としたい。</p> <p>私の留学計画は以下の通りである。<u>「全ての子どもに教育へのフリーなアクセスの提供」を理念とする NGO CBB という団体が経営する学校がある。そこで4か月半、教師として、日本語と英語を教える。ここでは、授業を行いながら、現地の教員と協力して現地の抱える問題に向き合う中で、私自身が、人間的な幅を広げ、教育力や外国語力を高めるなどの教員としての資質向上を目指す。鹿児島でも、近年外国籍の子どもが増えてきている。そのため、私たち教員は外国籍の子どもと日本の子どもに異文化理解の意義を伝えるためにも、私自身のカンボジアでの経験は不可欠である。</u></p> <p>次に私が目を向けたことはフィンランドで実践されている平等な教育である。PISAの調査結果によるとフィンランドは世界的に、OECD 平均と比べて低学力層の割合が最も少ない。日本やカンボジアでは、地域や親の年収によって、子どもの学力に差が見られる。そこで、私はフィンランドで<u>6か月間、小学校教育現場で英語を用いて各教科の授業や日本の文化を伝える授業を行なう。そこで、日本やカンボジアでの問題解決の糸口が見つかるかもしれない。また、私は、現地の先生や学生と「平等な教育」をテーマにしたディスカッションを行う。さらに、学校現場に実際に入り、現地の子どもと教員に聞き取り調査を行い、教育に対する価値観を知り、平等な教育の根本を探っていく。そこでの学びを鹿児島の教育現場に活かしていくためにも、フィンランドでの経験は必要である。</u></p> <p>最終的に私は教育現場から留学の成果を最大化していく。</p>				

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

(1) 受入れ機関情報

	1ヶ所目の機関	2ヶ所目の機関	3ヶ所目の機関
国・地域	カンボジア	フィンランド	
都市名	プノンペン／コンポンチヤム州	Iisalmi (イーサルミ)	
機関名 (英語)	NGO CBB	IIP	
機関名 (日本語)	国際協力 NGO CBB カンボジア	インターナショナル・インターンシップ・プログラム	
受入れ 機関 URL	http://cbb-cambodia.org/	http://www.internship.or.jp/	

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 (10) ヶ月／授業料申請 (有・無)

年 月	留学先機関	国・地域	主な活動
2017.3	Cbb school	カンボジア	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師, 英語教師(週5日) CBBスクール運営(現地スタッフ教育、マネジメント, 生徒集め, 時間割, カリキュラム作成) 日本国内への広報(毎日のブログ更新) 日本国内事務局との連携(週1のSkype、その他SNS) 日本とカンボジアの文化交流イベント 海外の学校現場とスカイプ交流(5か国の学校、世界の教員との交流) cbb school 拡大に向けての東南アジアの現地調査
2017.4	Cbb school	カンボジア	
2017.5	Cbb school	カンボジア	
2017.6	Cbb school	カンボジア	
2017.7	Cbb school	カンボジア	
2017.8		日本	留学準備のため一時帰国
2017.9	IIP	フィンランド	*以下(2017.9 - 2018.1) 同文
2017.10	IIP	フィンランド オランダ	<ul style="list-style-type: none"> オランダの学校現場視察(1週間) 運動会、文化祭のイベント実地
2017.11	IIP	フィンランド	<ul style="list-style-type: none"> 国際教育実習インターンシップ(週5日) フィンランド国内30校以上の学校視察 小中高専門学校で日本文化の授業(200本以上) フィンランドの教育学部生との交流 教員とのディスカッション 日本国内への広報(毎日のブログ更新)
2017.12	IIP	フィンランド	
2018.1	IIP	フィンランド	
2018.2	IIP	フィンランド	<ul style="list-style-type: none"> フィンランドのスタキャン実施(beyond school) 鹿兒島の大学生3名を含む日本の教育に関心のある学生13名をフィンランドの学校現場に派遣。

(3) 参加したプログラム (有・無) (複数選択可)

本学の協定校交換留学	名称記入	本学の協定校交換留学以外のプログラム	名称記入
本学以外の機関による留学プログラム	1. 国際協力 NGO CBB カンボジア 2. インターナショナル・インターンシップ・プログラム		

4. 留学の成果及びその測定方法 (300 字程度)

成果発表 (論文、作品等)	<input type="radio"/>	単位取得	<input type="radio"/>	外国語能力	<input type="radio"/>	その他	<input type="radio"/>
1. 成果発表：帰国報告会でのプレゼン『留学を通して学んだことと今後の展望』 2. 外国語能力：TOEIC で 730 点 3. その他：beyond school の中で「世界最先端のフィンランドの教育を日本の教育に還元する」目的で鹿児島県の学生をフィンランドの学校現場に派遣。							

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4. も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。(500 字程度)

私の留学の目的は 2 つありました。「日本を代表するグローバル教員のリーダーになること。」と「教員のネットワークの構築を行うこと。」です。

留学前はどのようにして、グローバル教員のリーダーになるのかイメージがついていませんでした。しかし留学を通して、私の強み、留学後の役割が明確になりました。私は留学を通して多くの繋がりを得ました。鹿児島県内を超えて、日本全国の学生と繋がり、海外の NGO、日本語学校、学校現場とも繋がりを持ちました。この繋がりを用いて、留学中に、beyond school としてフィンランドとカンボジアに 1 回ずつ、鹿児島の学生 4 名を含む、全国から 14 名の学生を現地に派遣しました。対象としたのは教育に熱い思いを持っている学生です。今後は教員としても、学校現場以外の人との繋がりも大切にして、コミュニティとコミュニティのマッチングも行っていきたいと思います。将来的には学校現場と学校外のコミュニティのマッチングを行い、地域全体で地域の子どもを支えていける仕組みづくりに携われたらと思います。

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500 字程度)

私が留学後に鹿児島で行うことは以下の 5 点です。

目的は「人やモノを繋げることで、鹿児島県内の学生に留学という選択肢を与えること」です。

1. 鹿児島県内の小中学校を周り、国際教育、異文化理解教育を行うこと。
2. 鹿児島県内の高校で beyond school として高校生に多様な選択肢を与えるためのワークショップを行う。(現在九州を除く全国の高校で実施されているものを鹿児島でも実施。)
3. 鹿児島の大学生をフィンランドとカンボジアに派遣し、共に学ぶスタディキャンプの実施。
4. 鹿児島の大学で留学の学びの発信と次の留学生のサポート。
5. 留学した cbb school の鹿児島支部を立ち上げ、鹿児島の国際協力推進の一步を行う。

私は留学を通して、普段出会うことのない多くの人と繋がることが出来ました。鹿児島は東京と比べると、かなり情報や機会格差があります。この格差を軽減するためにも、鹿児島県内の学生と県外の学生、海外のコネクションも繋げていくことで鹿児島の教員を志す若者、鹿児島の子どもに多様な選択肢を与えていけるネットワークの構築を行っていきます。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500字程度)

私は今回の留学を通して、自分自身の視野も広がり、また多くの人と繋がり、仲間を得ることができました。私は今の鹿児島県の教育の課題として、「学校現場、社会教育、塾等の教育機関は独立的には充実してきているのが、協同という観点からは上手く機能していない。」と思っています。1つ例を挙げると、親の所得や情報の格差で子どもの学びに機会格差が広がっています。留学前はこれを学校現場だけで解決しようと考えていましたが、今の学校現場はカリキュラムも増え、パンク状態で余裕がありません。留学を通して自分の考えも広がり、協同で地域の子どもを支えていく考えを得ました。

将来的には学校現場と学校外のコミュニティのマッチングを行い、地域全体で地域の子どもを支えていける仕組みづくりに携われたらと思います。その一歩として、鹿児島県の学生や大人ともっと繋がり、一緒に地域の問題について対話をする必要性を感じました。多くの鹿児島をよりよくしていこうとする大人や教育者、教員との繋がりを作り、「鹿児島の子どもを地域で育てていくコミュニティ」を作ることを通して、鹿児島の地域に貢献していきます。

平成 30 年 6 月 8 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	教育学部 学校教育教員養成課程 数学専修 4年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018年9月30日		

2. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700字程度）

【活動のタイトル】鹿児島のグローバル教育の推進～鹿児島での学びの場と海外実践の場を提供～

【活動の期間】 2018年 3月 5日～ 2019年 3月 31日

【活動の概要】

私は留学を通して東南アジア、北欧の学校現場と繋がりができました。この繋がりを活かして、留学後は、「留学経験のある教員のネットワークの構築」を一生涯かけて行い、世界に視野を向けられる鹿児島の子どもの育成を行っていきます。そのための準備を留学後に1年かけて行っていきます。具体的に私が行うことは3つです。

1つ目は、鹿児島県内の小中高等学校合わせて100校を周り、授業の中で私の学びを発信することです。小中学生には、世界に視野を向けさせることを目標にした国際教育、異文化理解教育を行います。授業を通しての子どもの変容を知るために毎回アンケートや感想用紙を記入してもらいます。それをもとに次の授業の改善やさらに子どもの変容から国際教育の意義をまとめていきます。また高校生には、高校卒業後の進路について考える際に、留学経験のある現役大学生と現役高校生をマッチングし、高校生に多様な選択肢を与えることで、大学進学後に留学する意思を持つ鹿児島の高校生を増やしたいと思います。

2つ目に、Beyond schoolとして「教員を志す学生に海外経験を提供し、グローバル教員の育成を推進する一助となること」を目的として、私が留学をしたフィンランドとカンボジアの学校現場に鹿児島の学生を連れていき、一緒に学ぶ場を提供します。既に留学中に、フィンランドとカンボジアに1回ずつこの企画を実施し、鹿児島の学生4名を含め、全国から14名の学生を現地に派遣しました。帰国後も継続していきます。

3つ目に、学内での留学経験の発信や土日を利用して、「教育学部で留学を行い、帰国後にどのように活かすのか」を一緒に考える機会を作りたいと考えています。その中でも自身の国際教育の実践を皆で考察し、留学後に活かせる場があることを発信します。これにより、ネットワーク

の目的である「帰国後の実践」まで目を向けて、一緒に鹿児島で国際教育を推進する仲間を増やしていきます。

3. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700 字程度)

私が鹿児島地域を活性化する活動はスタートラインに立ったばかりです。私が留学中、帰国後に始めた活動は次の 3 つです。

1 つ目は Beyond school として、留学中にフィンランドとカンボジアの学校現場に鹿児島の学生を含め、日本全国の学生を派遣しました。この企画では、鹿児島の学生 4 名を含め、全国から 14 名の学生が参加しました。今後の展望として、毎年春と夏に海外の教育現場に学生を派遣する企画を継続し、鹿児島の学生に「グローバルな視野で教育を学ぶ場の提供」を継続していきます。さらに、実際にスタディーキャンプに参加した仲間を集め、グローバル教員のコミュニティを作り、未来の鹿児島の教育をより良くするために、現場の先生を巻き込んで協働で行っていきます。

2 つ目は鹿児島大学で「途上国支援と向き合う」国際協力のサークルを立ち上げました。今年度の 4 月から活動を開始し、現在鹿児島大学の学生と毎週活動を行っています。現在夏に向けての渡航プロジェクトを作っているところです。今後の展望として、サークルメンバーでスタディーツアーを企画し、渡航後には、鹿児島の公立学校現場で子どもたちに途上国での経験を発信していきます。これにより鹿児島県内の子どもの「多文化理解教育」の推進を行っていきます。

3 つ目は学内での留学を考えている学生のサポートに尽力を尽くしています。留学中も含め、これまで、SNS を活用して 10 人の留学を考えている鹿児島大学生の面談を行ってきました。その中には実際に「トビタテ！留学 JAPAN」への海外留学プログラムに挑戦を決意した仲間も出てきました。今後の展望として、微力ながらこれから先も鹿児島大学から留学した先輩として、留学支援の力添えをしていきたいと思っています。

最後になりましたが、私は来年度から鹿児島県で小学校教員として働き始めます。現場の現実と向き合い、私が学んできたことを活かして「子どもが毎日楽しく通える学校づくり」を目指した学校経営に携わっていきます。鹿児島のよりよい教育の実現に向けてこれからも学び、行動を続けて参ります。